

第3学年図画工作科指導案

令和4年6月1日(水) 第5校時

荒川区立第三峡田小学校

第3学年1組 30名

授業者 西部 こずえ

研究主題

未来につながる子どもの育成 ～SDGsの視点と関連させた授業づくり～

1 題材名 「土でかく」A表現(1)ア(2)イ



2 題材の目標

廃棄予定であった陶土や校庭で採取した土を砕いたり、ふるいに掛けたりしてできた土絵の具の色や感触を味わいながら表したいことを見付け、土の色や形などの感じを捉えながら、表現を試したり、土の表現のよさや違いを鑑賞したりする活動に取り組む。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近にある自然の土を集めて、すりつぶしたり、ふるいに掛けたり、絵の具にして表したりしながら、形や色の感じ、それらの組み合わせによる感じなどが分かる。 ②手のひらや指先などの身体感覚を働かせたり、洗濯のりの量を調整したりするなど、自分なりの表現方法で工夫して表している。	①色や形の感じ、それらの組み合わせによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、造形的な面白さ、表したいこと、どのように表すかを考えている。 ②自分たちの作品の面白さや土の美しさ、色々な表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	①形や色などを視点に、比べたり、選んだり、作りだしたりして、すすんで表現や鑑賞をする学習活動に取り組もうとしている。 ②自ら材料を採取する、すりつぶす、画面に塗り広げるなどの感覚や行為から、身近な自然に存在する土の形や色、質感などの魅力を実感したり、興味や関心を高めたりするなど、活動を楽しんでいる。

4 児童の実態と題材について

本題材は、自分で採取した土や固まってしまってゴミになる予定であった陶土をすりつぶしたり、ふるいに掛けたりして土絵の具を作り、それを手で塗り広げたり、重ねたりすることで土絵の具の感触や、土の匂い、土の色の違いなどを感じ取りながら絵に表すものである。

本学級の多くの児童は図工の学習に意欲的に取り組むことができ、第1学年の時には「さわってかくのきもちいい」の液体粘土を使って手で描く活動を通して、触り心地のよさや手で描くことの楽しさを実感することができた。第2学年の「あわとなかよし」では、泡に色をつけて混ぜたり、塗り広げたりする活動を全身泡だらけになるまで楽しみ、泡の感触の気持ちよさや、パチパチとはじけたり、キラキラ光る泡の見目の美しさを楽しんだりした。毎時間の学習の振り返り際には、自分の作品を紹介しあったり、友達の良いところを発表したりする活動を行っており、多くの児童はその

時間を楽しみにしている。自分の作品や友達の作品のよさに気付くことができる児童も多い。一方で、立体に表す活動は好きだが、絵に表す活動が苦手だと感じている児童もいる。本題材では、これまでのように与えられた描画材で描くのではなく、自分で採取した土から絵の具を作ることで、材料と深く関わり、自然の色の美しさ色の違いなどに気付いたり、どの児童もすすんで活動に取り組むことができたりすると考えた。また、自分の表現に合わせて洗濯のりの量を調整したり、土の色を選んだりする中で、材料の見方や考え方を広げ、自分に合った表現方法を探っていく。

さらに、活動の途中に自然と相互鑑賞を行うことができるように材料を中央に配置したり、学習の振り返りの際に児童の活動を写真で取り上げて自分の考えや表現方法を伝え合ったりすることで、自分や友達の活動や表現のよさや、様々な表現方法があることに気付かせたい。絵に表すことが苦手な児童も、友達の活動を自由に見ることができるようにすることで、安心して活動できると考える。

SDGsの目標との関連については、①廃棄予定であった陶土を絵の具として再利用する活動を通して、目標12「作る責任、使う責任」と、②都市部で生活する児童にとって、土を直接手で触る経験は少ないと考えられるため、手で塗り広げたり、土を混ぜたりして土の感触の気持ちよさや匂いなどを感じるようにしたりする活動を通して、目標15「陸の豊かさを守ろう」と、③友達の活動や作品のよさを認め合う中で、目標16「平和と公正を全ての人に」と関連させて「未来につながる子」を育成していく。

児童に行った「未来につながるアンケート」の結果から、①「食べ物を残さず食べたり、水や物を大切にしたりしている（関連SDGs目標12）」に肯定的に捉えている児童が約85%、②「たくさんの人や自然と関って生きている（関連SDGs目標15）」児童が約86%、③「話し合うことで考えが広がったり、深まったりしている（関連SDGs目標16）」児童が80%いることが分かっている。この結果を基に、児童の材料や友達との関わりを見取っていく。以下アンケート結果である。

	①私は、食べ物を残さず食べたり、水や物を大切にしたりしている。	②私は、たくさんの人や自然と関わって生きている。	③私は、話し合うことで考えが広がったり、深まったりしている。
そう思う	16人	18人	14人
どちらかというと思う	9人	8人	10人
どちらかというと思わない	3人	2人	5人
そう思わない	0人	1人	0人
無回答（欠席1名）	2人	1人	1人

5 重視したいESDの視点との関連

ESDの視点	育てたい具体的な姿	関連評価
①批判的に考える力	・自分と友達の見方や感じ方を比較し、共通点を見付けたり、違う見方や感じ方があることに気付いたりする。	主②
③多面的、総合的に考える力	・土の触り心地や色の多彩さに気付き、自然の魅力を感じている。 ・材料である土と関わる中で、色や触った感じのよさに気付き、色や触った感じからイメージを広げ、自分の表したいことを見付ける。	主② 思②
④コミュニケーションを行う力	・活動して感じたことや考えたことを伝えたり、友達の感じたことや考えたことを受け入れたりする。	主①
⑦すすんで参加する	・自ら土を採取し、土絵の具を作ったり、手で塗り広げたり、土の匂い	主②

態度	をかいたり、身体全体の感覚を働かせて材料と関わっている。	知②
----	------------------------------	----

これらの態度を高めることで、ESDの構成概念「多様性」「相互性」を身に付けさせたい。

6 研究主題の視点にせまる手だて

(1) 批判的に考える力

- ・活動中に自然と相互鑑賞を行うことができるよう、材料や道具を置く場所を中央に配置する。
- ・友達の作品を見る時間を活動の途中で設定し、鑑賞するきっかけをつくる。
- ・土絵の具の組み合わせ方や、塗り広げ方等に工夫が見られた児童の活動を取り上げ、タブレットPCを使って電子黒板に投影し、共有できるようにする。

(2) 多面的・総合的に考える力

- ・自分で土を採取することで、土の触り心地や匂いなどを体感できるようにする。
- ・土と洗濯のりを手で混ぜて自分で土絵の具を作ったり、手で塗り広げたりすることで、しっかり土を観察し、色の違いや感触を味わうことができるようにする。
- ・始めから大きな画用紙に表すことが不安な児童には小さい画用紙を用意し、色を試したり、洗濯のりの量を調整したりできるようにして、表したいもののイメージを広げる手助けとなるようにする。

(3) コミュニケーションを行う力

- ・学習の最後に活動中の写真を使って振り返りを行い、自分が絵から感じたことや考えたことを友達に伝えたり、友達の感じたことや考えたことを聞いたりする時間を作る。

(4) すすんで参加する態度

- ・アルタミラ洞窟やラスコー洞窟の壁画を鑑賞することで、イメージを広げたり、土で描くことへの関心を高めたりする。
- ・初めから土絵の具を与えるのではなく、自分で土を採取したり、洗濯のりを混ぜて土絵の具を作ったりすることで、自ら材料に関われるようにする。

7 他教科等との関連

図画工作科「土でかく」		
生活科	社会科	理科
1年生 きれいにさいてね みずであそぼう	3年生 学校の周り 私たちの県	6年生 土地のつくりと変化
2年生 ぐんぐんそだて、 わたしの野さい	4年生 ごみの処理と再利用	

8 指導計画（全6時間）

	○児童の主な学習活動	・予想される児童の反応	評価規準
第一次 (2)	○アルタミラ洞窟やラスコー洞窟の壁画を鑑賞し、土で描くことへ興味をもつ。 ○土の採取や陶土の塊を叩いて砕いたり、ふるいにかけてりする活動を通して土絵の具への関心を高める。	・何で描いたのだろう ・土の匂いがする。 ・いろいろな色がある。 ・ふるいにかけてるとサラサラになる。	主① 主②
第二次 (1) 本時	○すりつぶしたり、溶いたり、塗り広げたりする感覚や行為を通し、土絵の具の面白さや美しさを味わう。また、手で塗り広げた時にできた形の感じや色の様子などから思いのままに活動を楽しむ。	・ざらざらしている。 ・気持ちいい。 ・洗濯のりの量で描いた感じが変わる。	知① 主②

第三次 (2)	○前時の乾燥した土絵の具の画面に、さらにどんな形や色を加えたらよいかについて考え、表現を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・乾燥したら色が変わった。 ・土が割れてきている。 ・土絵の具を重ねると厚みが出る。 	知② 思① 思② 主①
第四次 (1)	○相互鑑賞を通し、活動や作品について深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・土絵の具で○○みたいになったから、それに合わせて△△を上から描こう。 	思① 思② 主①

9 本時（3／6時間）

(1) 本時の目標

○土をすりつぶしたり、溶いたり、塗り広げたりする感覚や行為を通し、土絵の具の面白さや美しさを味わう。また、手で塗り広げた時にできた形の感じや色の様子などから、思いのままに活動を楽しむ。

(2) 本時の展開

	○学習活動 T教師の発問 C予想される児童の反応	□指導上の留意点 ☆評価規準【観点】(評価方法)
導入	<p>○前時の活動を振り返り、本時の活動の見通しをもつ。 T先週は、どんなことをしましたか。 C学校の校庭で土を採ってきたり、固まった土粘土を割ったりしました。 T乾燥させた土は、どんな感じですか。 C色が変わりました。 Cサラサラしています。</p> <p>自分の土絵の具を作ったためして、いい感じを見付けよう。</p> <p>○土絵の具の作り方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土をすくう ・洗濯のりを必要な分だけ入れる 	<p>□前時の活動を写真で振り返る。</p> <p>□土や洗濯のりの感触が苦手な児童には、ビニール手袋を渡す。</p> <p>☆土をすりつぶしたり、画面に塗り広げたりする活動を通して、土の色や形の魅力に気付いたり、楽しんだりしている。</p> <p>【主②】(発言、活動、作品)</p>
展開	<p>○自分で作った絵の具を使って、画面に塗り広げたり、色を組み合わせたりする。 T自分で作った絵の具を画用紙に塗り広げてみましょう。 Cザラザラする。 C洗濯のりの量を次は変えてみよう。 C洗濯のりを少なくしたら、ぼそぼそする。 C今度は違う色の土で絵の具を作ってみよう。 C洗濯のりの量を増やして、薄く広げてみよう。</p>	<p>□洗濯のりの量で、土絵の具の感じが変わることに気づかせたい。</p> <p>□初めから本番用の紙に描くことに抵抗のある児童には、試すことができる紙を渡す。</p> <p>□活動の途中の画像を電子黒板に投影することで、友達の表現のよさに気付かせる。</p> <p>☆洗濯のりの量を変えることで土絵の具の感じが違うことや、土の組み合わせによる感じの違いに気付いている。</p> <p>【知①】(発言、活動、作品)</p>

<p>終末</p>	<p>○学習のまとめと振り返り</p> <p>T今日は土絵の具でどんなことができましたか。</p> <p>C洗濯のりを多めにしたら薄くなりました。</p> <p>C土の種類によって色が違っていました。</p> <p>T友達がどんなことをしていたか、一緒に見てみましょう。</p> <p>C私は、広げた後に指でなぞったら、線が描けました。</p> <p>C洗濯のりを少なくして重ねたらボコボコになりました。</p> <p>C Aさんの作品は、動物の群れが走っているように見えました。</p> <p>C次は、恐竜を描き足したいです。</p>	<p>□活動中の画像を電子黒板に映しながら活動を振り返る。</p> <p>□次時への意欲につながるよう、児童の言葉で振り返りを行う。</p>
-----------	---	---